

1. 調査目的等

小学校1年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善に役立てる。

2. 学校ごとの指標

標準学力調査において、標準スコア(国語55.0、算数55.3、社会54.4、理科54.2)より各教科1ポイントアップを目指す。

3. 指標にむけての取組

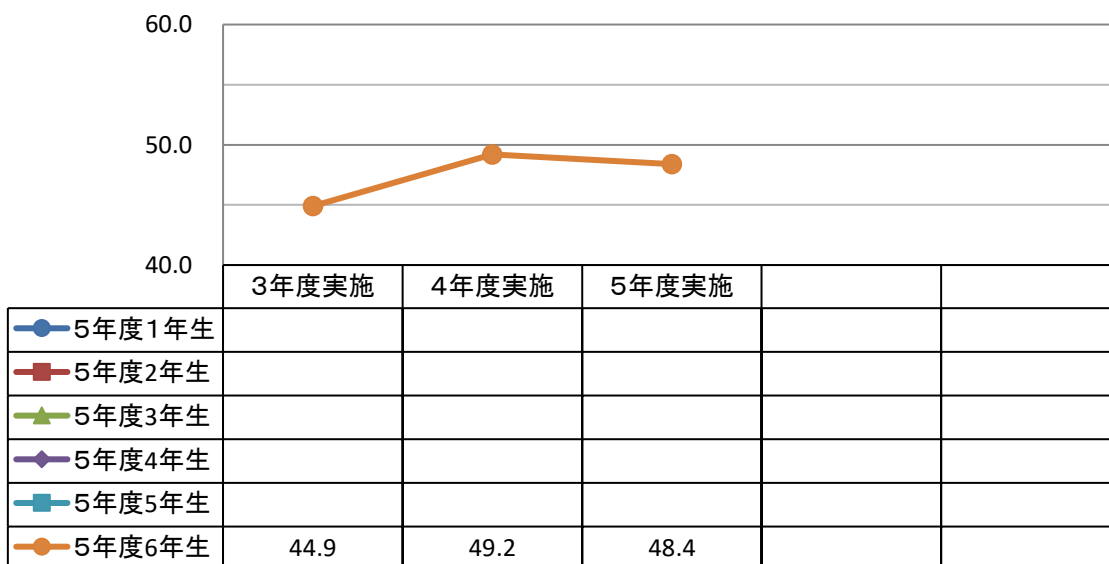
- 熊小授業の進め方の徹底(めあて・見通し・一人学び・友達学び・振り返り・次時確認)
・单元テストにおいて、80点以上に到達できるようにををする。
- 主題研修の日常化(シラバス、ワークシート、ガイドを活用した「読み、考え、書く」力の育成)
- 補充学習(朝活・昼チャレンジ・補充タイム)の全員体制での計画的実施

4. 調査結果

※学校平均(国語・算数)2年間の推移 (標準スコア:全国値の正答率を50とした時の換算値)

年度	3年度	4年度	5年度		
本校(A)	54.9	57.0	55.4		
嘉麻市(B)	47.0	47.2	48.5		
(A) - (B)	7.9	9.8	6.9	0.0	0.0
全国値との差 (A) - (50)	4.9	7.0	5.4	-50.0	-50.0

各学年の標準スコアの推移



※嘉麻市立小中学校全国学力・学習状況調査等の結果に関する規定第6条2項の規定に基づき、小学6年生以外の結果については公表は行いません。

5. 各学校における分析

- ・学校全体の平均は、全国平均を上回ることができたが、5年度の成果指標を達成することはできなかった。
- ・主体的に学ぶ学習態度の観点で、5年度より低下している。

【国語】

- ・全体的に漢字や言葉等の言語事項に関わること、また、4年生から6年生については「読むこと」の領域において課題となっており、言語に関する基礎力を育み、読みへの指導が必要である。

【算数】

- ・「数と計算」領域がよくできているが、思考・判断・表現の面にも課題がある。

6. 各学校における今後の取組

- ・単元テストで80点を目標にして、できていない箇所の習熟を図り、再テストにて到達させることにより、学習した内容を確実に定着できるようにする。

【主体的な学びの育成】

- ・学ぶことのよさや楽しさが味合うことができるように、これまで国語科で行ってきたシラバスガイド活用とともに、自己選択できる授業づくりの見直しを図り、学ぶことのよさや楽しさを感じることができるようにする。

- ・家庭学習の中に、キュビナ等を活用し、個に応じた課題選択の学習を取り入れ、自ら学ぼうとする家庭学習への改善を図る。

【言語事項・読解力を育成】

- 朝学習に漢字や文章問題や資料から読み取る学習を繰り返し、言語事項や読解力が高まるようにする。

- ・「書く活動」を重視する。

- 理由や方法を用語や式などを用いて文章で説明する学習を多く取り入れ、自分の考えを具体的に表現できるように指導する。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、指導主事を派遣して校内研修で授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、AIドリルを活用した個に応じた家庭学習課題の推進を図る。

また、個に応じた学習課題の提示を進める各学校の取組を交流する場を設定する。

◆学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方、ICTの利活用について指導する。